



岸本区政 子どもの声を丁寧に聴取

児童館7館新設方針示される

前区政の全館廃止方針を転換

既存25児童館存置と中学校区で児童館が無い地域に7館を増設

今定例会、山田耕平議員の今後の児童館のあり方に関する一般質問に対し、岸本聡子区長は児童館の新設方針を表明しました。

杉並区では前・田中区长が児童館の全館廃止方針を強引に進めた結果、2013年に41館あった児童館が、2024年には25館まで減少。一方、岸本区政は、子どもが安心して過ごせる多様な居場所づくりの検討を進め、検討プロセスにおいて当事者である子どもの意見を丁寧に聴取（子どもワークショップ等も開催）、地域住民や関係者とも意見交換を重ね、子どもの居場所に関する方針策定に取り組んできました。

岸本区長は「これまでの再編の考え方を見直し、現在ある児童館について（中略）機能強化を図った上で存置していく」と表明。「現在、中学校区に児童館が無い地域では、今後、他の区立施設との併設や複合化を前提に、新たな児童館の整備について検討していく」とし、児童館新設の方向性を示しました。児童館の機能強化と新設が示されたのは初めてであり、杉並区の児童館行政の大きな方針転換となります。

党区議団は前区長が2014年に「施設再編整備計画」を発表した当初から、児童館の全館廃止方針の問題点を指摘し、地域住民とともに存続を求めてきました。10年間の粘り強い運動が区政の大きな方向転換を実現させました。

児童館が存在しない7つの中学校地域 (今後、児童館が新たに整備される地域)

荻窪中 東原中 高円寺中(高円寺学園)
東田中 大宮中 和泉中(和泉学園) 向陽中



「杉並区子どもの居場所づくり基本方針(素案)」より

【児童館新設方針を喜ぶ保護者の声】

- 小学生の遊べる場所は公園などに限られ、少ない。友達と自由な時間を過ごせる児童館があれば安心でありがたい。たくさんの方に児童館を新設してほしい。
- 自宅が遊び場になっているがトラブルもある。共働きの家庭が多いので大人が見守ってくれる居場所がほしい。子どもたちも喜んでます。
- 乳幼児連れでの外出時、急なぐずりに児童館があって助かった。地域の児童館がセーフティネットになる。

杉並区子どもの居場所づくり基本方針(素案)の概要

- 今ある児童館25館を存置。中学校区に児童館が無い地域は、児童館7館を新設
- 全館の内、7館(7地域に1館)は「中高生機能優先館」へ
※今までどおり0~18歳までが利用でき、特に中高生機能を優先する。
- 全ての小学校で放課後等居場所事業を実施。現在17校⇒全40校へ
- 学童クラブは150人程度を目安に2クラブ相当の人員配置
- 今後、素案→案となり、パブリックコメントが行われます。



◆2025年度予算要望書を岸本区長に提出



日本共産党杉並区議団は、区民のいのちとくらしを守り、区民の願いに沿った来年度予算編成を進めることを求め、全467項目にわたる要望書を岸本区長に提出しました。

区民アンケート実施中

「くらし・区政への要望アンケート(2024年度)」を実施しています。現在までに、約1000通もの回答が寄せられています。集計の最中ですが、「物価高で生活が苦しい」という声が多く、区民のくらしや営業の深刻さが浮き彫りとなっています。寄せられた意見や要望は区政に活かしていきます。インターネットでも回答できますので、ご協力をよろしく願います。 [アンケート回答はこちら▶](#)



 くすやま美紀(団長) ☎080-5531-8236 荻窪5-15-19-704	 山田耕平(幹事長) ☎090-9973-0941 善福寺2-2-11	 富田たく(副幹事長) ☎090-9001-5249 高円寺南3-59-7-301	 酒井まさえ ☎090-9325-5676 堀ノ内1-9-7	 小池めぐみ ☎090-5516-3284 阿佐谷北1-3-9	 和氣みき ☎090-4154-9786 浜田山3-26-27富貴ビル1F
--	---	---	--	---	---

岸本区政の2年間 暮らし・福祉最優先の区政に向け、前向きの変化が加速

物価高騰対策が前進 中小企業光熱費高騰緊急対策 助成金は5772事業者が利用



くすやま美紀議員

2023年度、岸本区政は多くの区内事業者の声を聞き、党区議団も求めてきた中小事業者への光熱費補助(中小企業光熱費高騰緊急対策助成金)を実施。23区の中でも先駆的な取り組みとなり5772事業者が助成を受けました。多くの事業者から望まれていた事業であり、光熱費やコメを始めとする食料品の高騰が続いていることから、引き続き物価高騰対策を区として進めるよう要望しました。

就学援助の認定基準額引き上げ



富田たく議員

前区政のもとで引き下げられた就学援助の認定基準額を、2023年度に生活保護基準の1.2倍から1.3倍に引き上げたことにより、認定者が188人増加。物価上昇率をかんがみ、基準額を1.5倍まで引き上げることを、要望しました。

防災・震災対策が着実に進む

耐震不燃化の取組を継続し、耐震化率不燃領域率などの指標を着実に増加させました。一般緊急輸送道路沿道建築物の耐震診断に対する助成率を1/2から9/10へと拡充するなど、さらなる防災対策をおこなっています。

日本共産党の要望・論戦で区政が前進

学校給食無償化に子育て家庭から多くの喜びの声

区は2023年の10月から区立小中学校・特別支援学校の給食費無償化を実施。今年4月からは国立私立小中学校児童生徒と不登校児童生徒に対して給食費相当分の支給も開始しました。今年度の食材費に換算すると1人平均月6300円、年間で69,300円もの負担軽減となります。食材が軒並み高騰しているも、「本当に助かる」「浮いた分で習い事に回したり子どもの費用に使えてありがたい」など、保護者からは喜びの声が届いています。



補聴器購入費助成は当初見込みの3倍以上の申し込み 生活保護ポスターを新たに作成



和氣みき議員

2023年度、当初予算で120件を見込んでいた補聴器購入費助成は3倍以上の申し込みがあり、最終的に510件となりました。(今年度は予算を3倍以上増やして実施)。高額であることから購入をためらっていた高齢者から「やっと購入しました」とのうれしい報告もありました。

今年度から「生活保護は国民誰でも相談・申請することができます」というポスターが作成・掲示されました。今後も、さらなる福祉施策の拡充を要望していきます。

第3回定例会一般質問での日本共産党の提案

山田耕平議員

▶ゆうゆう館の存続について

ゆうゆう館は高齢者の生きがい活動の拠点。「高齢者の居場所として慣れ親しんできたゆうゆう館を残してほしい」という高齢者の声を紹介し、存続を求めました。区は「高齢者にとっての『第三の居場所』を適切に確保していくことは区として重要」と答弁しました。



小池めぐみ議員

▶若者支援について

若者が抱える様々な問題を包括的に相談できる窓口の設置、若者の実態調査の実施、大学生の給付型奨学金の実施等を提案しました。区は「近隣自治体の例を調査し、計画策定に向けた検討の中で具体的な取組内容を考えていく」と答弁しました。



酒井まさえ議員

▶介護の人材確保について

区として、介護の人材を確保するために、介護従事者への家賃補助や定着奨励金、宿舍借り上げの支援事業、介護の魅力発信などを提案しました。区は「他区の実施状況を研究し、令和7年度当初予算編成において検討する」と答弁しました。



ジェンダー平等に関する審議会の設置条例が可決

今定例会に「(仮称)杉並区ジェンダー平等に関する審議会」を設置する議案が提案されました。ジェンダー平等を進める条例制定を視野に、有識者や区民ら12人以内で構成し、来年秋ごろまでに答申を出す予定です。

岸本区政のもとで性の多様性条例の制定、パートナーシップ制度の創設、学校や区立施設トイレへの生理用品の配置、区役所におけるハラスメントゼロ宣言、会計年度任用職員の報酬引き上げや生理休暇の有休化など、ジェンダー平等の取組が進んでいます。党区議団は、審議会の中で、ジェンダー平等の取組を進めるための様々な議論がおこなわれることを期待し、議案に賛成。他会派の賛否は以下の通りです。

◆「杉並区ジェンダー平等に関する審議会条例」に対する各会派の賛否 (賛成31・反対16)

会派・人数	自民	共産	立憲	公明	無所属	維新	生ね	れ耕	安心	参政	革新	セング	緑	杉わ	共生	無	杉ク	f r	
賛否	×	○	○	○	×	○ ³	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	×

【賛否】○/賛成、×/反対、欠/欠席。「維新」は1名が議長のため、賛否は3名のみ表明。
【会派の正式名称】自民/杉並区議会自由民主党、共産/日本共産党杉並区議団、立憲/立憲民主党杉並区議団、公明/杉並区議会公明党、無所属/無所属・都民ファーストの会、維新/維新・無所属議員団、生ね/区議会生活者ネットワーク、れ耕/れいをを耕す、安心/安心・安全杉並の会、参政/参政党杉並、革新/都政を革新する会、セング/杉並をセンタク致し候、緑グ/緑の党グリーンズジャパン、杉わ/杉並わくわく会議、共生/共に生きる杉並、無/無所属(堀部)、杉ク/区政杉並クラブ、fr/far right.

一方で、岸本区政に対する攻撃も・・・

今定例会でも、決算年度(2023年度)の事業に対して、自民党や一部の少数会派からは攻撃が相次ぎました。自民党は給食費無償化を「緊急性の乏しい計画外事業」、無所属・都民ファーストは区立小中学校での無償化から3か月後に、国私立学校への無償化を決定したことに対し「分断を招いた」などと執拗に攻撃しました。

ハラスメント防止に向けて、杉並区議会でもハラスメント研修実施へ

今定例会でも、議場や委員会の場でのヤジや暴言が繰り返される異常事態となりました。特定の職員に対する恫喝的な質問も増えており、ハラスメントに類する質疑も頻発しています。

特に田中ゆうたろう議員の暴言は、ますます深刻化しており、決算特別委員会では自身の質疑持ち時間を過ぎた後も持論を述べ続け、委員長の制止も無視。机を叩きながら威嚇する等、議会運営を蔑ろにする行為を繰り返しています。こうした行為は党区議団も含む複数の会派が理事会でも問題としています。

この間の事態を受け、杉並区議会でもハラスメント研修を実施することを決定。党区議団は、今後のハラスメント防止条例の制定も視野に、多くの会派と協力し議会正常化に向けて力を尽くします。

